

1. レジ袋削減への取組の経緯

仙台市では、市民局において、平成6年に「せんだい簡易包装推進ネットワーク」を設置し、平成12年には「仙台市包装の削減に関する研究会」を設置する等、市民局主導で包装削減に向け取組んでいた。

平成15年度からは環境局も加わり、「包装削減キャンペーン実行委員会」のもと大規模な包装削減キャンペーンを実施した。平成18年度には、環境局に「レジ袋削減に関する懇談会」を設置し、市民・事業者・行政が自由な立場で意見交換や情報交換を行ってきた。

レジ袋削減に向け、関係市民団体（レジ袋の削減を進める市民ネットワーク）から有償配布の要望が出されたこともあり、仙台市におけるレジ袋削減は、マイバッグ持参の普及と有償配布を2つの柱としている。

一部の市内スーパーから、レジ袋削減のための有償配布に取り組むとの意向が表明されたことを契機に、平成19年6月1日に幸町地区の4店舗との間で、事業者・市民団体・市の三者により協定の締結に至った。その後、取り組み店舗は順次拡大し、同年10月1日には中山・南光台地区10店舗と、平成20年7月1日には太白地区14店舗と、平成21年2月2日には市内48店舗と協定の締結又は確認書の交付を行った。

平成24年3月現在、14事業者、73店舗と協定の締結又は確認書の交付を行い、レジ袋削減に取り組んでいる。

2. レジ袋削減への取組に係る自身の評価

(1) 協定締結可能なスーパーマーケット店舗とは締結済み

平成24年3月現在、14事業者、73店舗との協定締結・確認書交付ができており、この中に大手スーパーチェーンはほとんど含まれている。

ドラッグストアやコンビニエンスストアへの参加呼びかけも行っているが、ドラッグストアは同業者間での競争が激しく、レジ袋の有償配布による顧客離れ・売上減少懸念からレジ袋の有償配布を行うことが困難な情勢である。また、薬品、生理用品等プライベートに関わる商品を多く取り扱っていることも、レジ袋の有償配布が困難な要因となっている。コンビニエンスストアは、衝動的・突発的に立ち寄る来店客へのサービスの一環として無料でレジ袋配布を行わざるを得ないことからレジ袋の有償配布を行うことが困難な状

況にある。

(2) レジ袋辞退率は上限値に達している

現在、レジ袋辞退率は、ほぼ8~9割に達している。

レジ袋辞退率100%の実現は著しく困難であり、現状のレジ袋辞退率が上限値ではないかと捉えている。

3. レジ袋削減から新たな取組に展開した経緯、新たな取組に展開できた要因

平成19年度までは、レジ袋に限定する形で、毎年、店頭でレジ袋を辞退した市民に応募券を配布し、抽選で商品を差し上げるキャンペーンを実施していた。このキャンペーンは市民局から引継ぎ、環境局廃棄物事業部リサイクル推進課で実施していたものである。

レジ袋削減については一定の成果を挙げたことから、平成20年度から、対象を3Rに拡大し、詰め替え商品の購入、軽包装への協力等、3R行動に協力した市民に応募券を配布し、抽選で賞品を差し上げるキャンペーンを実施した。

しかし、このキャンペーンへの協力店舗にとっては、リピート客に毎度、応募券を渡す形になり、協力店舗のレジ精算現場での負担が過大になりつつあった。協力店舗の負担軽減に向け、レジ精算現場を使わない形での応募形態への転換が必要となっていた。

一方、環境局環境部環境都市推進課では、CO₂削減を目的に、CO₂削減行動を実践した場合に、パソコンや携帯電話でキャンペーンサイトに登録し、一定のポイントをためた後、応募すると抽選で賞品を差し上げるキャンペーン（「ちょCO2(こつ)とダイエットキャンペーン」）を実施していた。このキャンペーンの協力店舗の中には、リサイクル推進課で行っていたキャンペーンの協力店舗が多く存在していた。

ごみ減量・リサイクルの推進の最終的な目的はCO₂削減にあることから、リサイクル推進課で行っている3Rを対象にしたキャンペーンと、環境都市推進課で実施している「ちょCO2(こつ)とダイエットキャンペーン」を統合することとした。こうして生まれたのが、「コツ(CO₂) コツ(CO₂) 減らしていいもの当てようキャンペーン」である。

4. 新たな取組の詳細

「コツ(CO₂) コツ(CO₂) 減らしていいもの当てようキャンペーン」で対象とする3R行動は、次のとおりである。

キャンペーンで対象とする3R行動例

○Reduce (リデュース) : ごみになるものを減らす

- ・買い物にはマイバッグを持参する
- ・量り売り、ばら売りを利用し、必要な量だけ買う
- ・過剰包装や使い捨ての商品を選ばない

○Reuse（リユース）：くり返し使う

- ・マイはしやマイボトルを持ち歩く
- ・お酒や清涼飲料水は再使用びん入りを選び、びんは販売店へ
- ・不要になった家具や家電製品、衣類はリサイクルプラザやフリーマーケットなどに提供

提供する

- ・詰め替え商品やくり返し使える商品を利用する

○Recycle（リサイクル）：再生して使う

- ・缶、ビン、紙類などの資源物は分別し、市の収集や集団資源回収へ
- ・再生品やリサイクルしやすい材料や構造、容器包装の製品（エコマークやグリーンマークのついた商品）を選ぶ
- ・紙パックや食品トレイ、ボタン電池などは店頭回収に

別途、毎年9月に「エコフェスタ」を開催している。これは市民団体、業界団体、仙台市が協働して設置しているアメニティ仙台推進協議会が主催しているが、レジ袋のみならず、3R全般についての普及啓発を行っている。

5. 今後の課題

（1）3R行動、CO₂削減対策の成果の評価方法の改善

仙台市自身でも原単位を様々探して、効果の算出に努めているが、公表しうるものか悩むこともある。個別行動メニューに係る原単位については、国から信頼性のある原単位の情報提供を積極的に行ってほしい。

（2）レジ袋削減協定に参加していない事業者における取組の支援

協定には参加していないものの、独自にポイント制でレジ袋削減に取り組んでいる事業者もある。仙台市としては、レジ袋削減協定に参加せずとも、独自の方法でレジ袋削減に取り組む事業者については、何らかの協力体制が取れないか検討している。

昨年6月には、レジ袋削減協定に参加していない店舗を含めた市内の店舗を対象に、「マイバッグをもって減らそうレジ袋キャンペーン」のポスターを店頭に貼ってもらい、レジ袋削減の普及啓発を図ろうと計画していた。しかし、東日本大震災が起き、この計画はあいにく中止となってしまった。

6. その他特記事項

(1) レジ袋削減対策の成果の評価方法

レジ袋削減対策の成果を何らかの数値で示さないと、レジ袋削減対策の成果が市民に伝わらないと考えている。従来は、原油換算のみで公表していたが、平成 22 年に、宮城県もレジ袋削減に係る協定を締結し、レジ袋削減対策の成果をCO₂削減効果で公表したことから、仙台市も宮城県の成果の公表方法に合わせることを望ましいと考え、平成 22 年以降、原油換算に加え、CO₂削減効果も表示することとした。(次ページの公表資料を参照)

※参考：レジ袋削減実績の公表結果

記者発表資料
平成23年8月19日
(担当) 環境局 ごみ減量推進課
啓発係 大須賀
(内線) 735-3474
(直通) 214-8230

レジ袋削減実績（平成22年度）を公表します

仙台市では、これまで容器包装廃棄物の排出抑制を一層促進させることを目的として、事業者及び市民団体と「仙台市におけるレジ袋の削減に向けた取り組みに関する協定」を締結し、レジ袋の有償提供を実施してきました。平成21年2月には、レジ袋の削減の取り組みを全市に拡大、現在、14事業者73店舗で取り組みを行っています。

このたび、平成22年度のレジ袋の削減実績等が取りまとめられましたので、お知らせいたします。

記

1. レジ袋の有償提供実施による削減実績

店舗ごとのレジ袋の平均辞退率は、76～94%となっています（詳細は、別紙参照。）。

	平成21年度	平成22年度	対前年比	累計 (H19.6 ～H23.3)	備 考
削減枚数	約5,873万枚	約7,318万枚	124.6%	約17,205万枚	
原油換算	約811千ℓ	約1,010千ℓ	124.5%	約2,374千ℓ	レジ袋1枚あたりの使用エネルギー(資源採取～最終処分)を原油換算(13.8ml/枚・LLサイズ)した数値を基に計算
CO ₂ 削減量	約2,124t	約2,646t	124.6%	約6,221t	地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく排出量報告に係る原油の排出係数(2.62tCO ₂ /ℓ)を基に計算

【参考】

平成22年度のレジ袋の削減による原油節減量1,010千ℓは、およそ

ドラム缶5,100本分、25mプール2.8杯分に相当します。

※ ドラム缶は、1本あたりの容量を200ℓ、プールは、25mプール(長さ25m×幅12m×深さ1.2m)の容量を360kℓとして算出。

平成22年度のレジ袋の削減による二酸化炭素(CO₂)削減量2,646tは、およそ

杉の木19万本が1年間に吸収する二酸化炭素(CO₂)の量に相当します。

(森林面積にして227万㎡、クリネックススタジアム宮城のグラウンド177個分の面積に相当。)

※ 杉の木のCO₂吸収量を14kg、森林における杉の木1本あたりの平均専有面積を12㎡として算出(「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」環境省、林野庁資料から引用。なお、CO₂吸収量は、50年生の杉の木1本が1年間に吸収する量。)。クリネックススタジアム宮城のグラウンド面積を1.28万㎡として算出(東北楽天ゴールデンイーグルス公式サイトから引用。)